

第 14 回富士山世界文化遺産学術委員会における主な意見（10 月 15 日）

1 今夏の富士山の状況（閉山）と来夏に向けた取組みについて（報告）

- ・学術委員会としても、来夏の開山に向けた対策の検討をお願いしたい。

2 「富士山登山鉄道構想」に係る中間提言（案）について（議事（1））

- ・会議資料にある、「富士山登山鉄道構想」に係る中間提言（案）を学術委員会から発出していただきたい。（了承）
- ・提言内容の（1）世界遺産委員会への報告、（2）遺産影響評価（以下、「H I A」）の実施を前提とした構想及び計画を検討は、確実に実施してもらいたい。
- ・本構想におけるH I Aは、誰がどの段階で作成し、誰が評価するか等の枠組について今後検討を進める必要がある。事業実施の可否を含めて初期の段階で検討していく必要があり、現時点でGOサインを出しているわけではない。
- ・H I Aでは、事業実施を前提として条件を付けていくというより、検討すべき事項に対する具体案を踏まえ、それについてどう考えるか学術委員会で考えていく。
- ・本構想が良い悪いという前に、様々な問題があるので、これらから取組むということでのよいのではないか。
- ・本構想のH I Aは事業計画が固まった段階で実施するH I Aではなく、事業計画の初期段階から始まる戦略的H I Aを行う必要がある。
- ・利用者負担金（富士山保全協力金）について、鉄道ができた時に運賃に協力金を乗せてしまうことが問題。利用者が支払う運賃はサービスに対する対価であり、富士山保全協力金は信仰の対象である富士山に対する拝観料であると認識している。

3 世界文化遺産富士山遺産影響評価マニュアル（素案）について（議事（2））

- ・遺産影響評価を誰がどのように行うかを定める必要がある。

4 富士山須走口五合目における園地事業の遺産影響評価について（議事（3））

- ・インフォメーションセンターが整備されるのは大変よいこと。どういう中身を展示するのかを富士山世界遺産センターとも連携をとっていただきたい。

5 経過観察指標にかかる年次報告について（議事（4））

- ・今後、年次報告書に新たにH I Aについての記載が加わってくるという理解でよいか（⇒事務局：よい）